

令和 4 年度 宇検村温室効果ガス排出量

令和 4 年度宇検村役場が行う事務・事業活動において村施設等から排出された温室効果ガスの排出量を基準年度係数使用と当該年度係数使用の両者を項目別に公表します。

基準年度係数使用

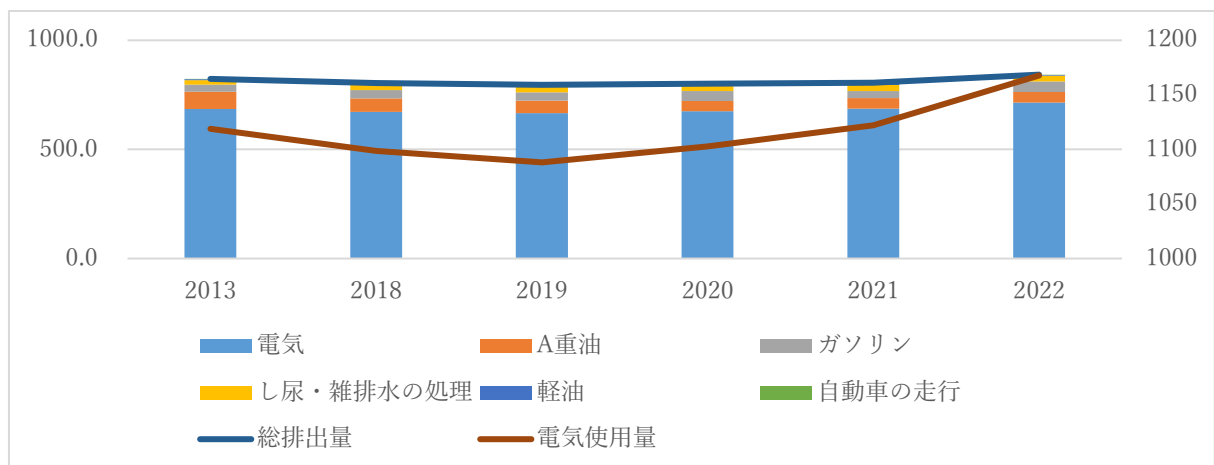
表 1 【令和 4 年度 項目別温室効果ガス（二酸化炭素）排出量】

項目名		エネルギー使用量 ①	基準係数 ②	比較排出量 (t-CO2) ①×②	割合 (%)
電 気		1,167,765 kwh	0.000612	714.7	84.8
重 油		17,570 L	0.00271	48.8	5.8
公 用 車	ガソリン	21,012 L	0.00232	47.6	5.6
	軽 油	951 L	0.00258	2.5	0.3
	自動車の走行	322,807.1 km	自動車ごとの係数	2.7	0.3
し尿・雑排水の処理 (集落排水処理の年間人数)		14,808 人	CH2-0.001229167 N02-0.000571167	26.7	3.2
合 計				842.7	

表 2 【温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の基準年度との比較】

項目名		平成 25 年度（基準年度）		令和 4 年度	
		エネルギー 使用量	基準排出量 (t-CO2)	エネルギー 使用量	比較排出量 (t-CO2)
電 気		1,118,942 kwh	684.8	1,167,765 kwh	714.7
重 油		29,580 L	80.2	17570.0 L	48.8
公 用 車	ガソリン	14,067 L	32.6	21,012.0 L	47.6
	軽 油	1,620.0 L	4.2	951.0 L	2.5
	自動車の走行	234,355 km	2.2	322,807.1 km	2.7
し尿・雑排水の処理 (集落排水処理の年間人数)		10,752 人	19.4	14,808 人	26.7
			823.4	19.3t-CO2 (2.3%増)	
				842.7	

【温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の推移グラフ】



当該年度係数使用

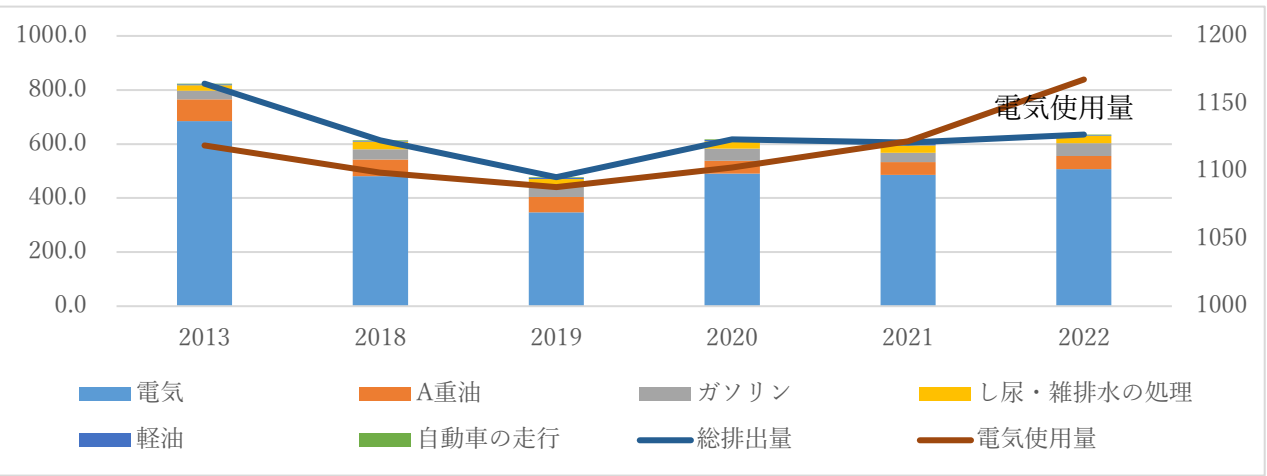
表 3【令和 4 年度 項目別温室効果ガス（二酸化炭素）排出量】

項目名		エネルギー使用量 ①	基準係数 ②	比較排出量 (t-CO2) ①×②	割合 (%)
電 気		1,167,765 kwh	0.000434	506.8	79.8
重 油		17570.0 L	0.00271	47.6	7.5
公 用 車	ガソリン	21,012 L	0.00232	48.7	7.7
	軽 油	951.0 L	0.00258	2.5	0.4
	自動車の走行	322,807.1 km	自動車ごとの係数	2.7	0.4
し尿・雑排水の処理 (集落排水処理の年間人数)		14,808 人	CH2-0.001229167 N02-0.000571167	26.7	4.2
合 計				634.9	

表 4【温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の基準年度との比較】

項目名		平成 25 年度（基準年度）		令和 4 年度	
		エネルギー 使用量	基準排出量 (t-CO2)	エネルギー 使用量	比較排出量 (t-CO2)
電 気		1,118,942 kwh	684.8	1,167,765 kwh	506.8
重 油		29,580 L	80.2	17570.0 L	47.6
公 用 車	ガソリン	14,067 L	32.6	21,012.0 L	48.8
	軽 油	1,620.0 L	4.2	951.0 L	2.5
	自動車の走行	234,355 km	2.2	322,807.1 km	2.7
し尿・雑排水の処理 (集落排水処理の年間人数)		10,752 人	19.4	14,808 人	26.7
			823.4	188.5t-CO2 (23%減)	
				634.9	

【温室効果ガス（二酸化炭素）排出量の推移グラフ】



参考（基準係数は当該年度係数を使用）

項目	2021 年度	2022 年度	21-22 年度変化		
ガソリン	47.92	48.78	0.87	101.81%	増加
軽油	8.27	2.46	-5.81	29.74%	減少
A 重油	33.63	47.61	13.98	141.58%	増加
電気	485.88	506.81	20.93	104.31%	増加
自動車の走行	2.69	2.54	-0.15	94.56%	減少
し尿・雑排水の処理	26.81	26.66	-0.15	99.44%	減少

考 察

令和 4 年度（2022 年度）の基準年度係数利用排出量は表 1 のとおりであり、基準年（平成 25 年度）と比較すると 2.3%増となりました。（表 2 参照）

基準年度排出係数を用いて排出量を比較するということは、排出量計算の基礎である排出係数を基準年度で固定して比較するため、各項目の使用量の増減を比較し、使用量に対する経過を比較するものです。

2022 年度に於いては各項目とも増加していることが示されています。

新型コロナウイルスからの回復に伴い活動が活発化したことが主な要因と考えられますが、活動が制限された状況からの解放に伴う省エネ意識の低下も要因と考えます。

なぜなら、ガソリン消費量に対して走行距離が低下していることから省エネ運転に対する意識低下が読み取れます。

一方、当該年度排出量係数使用における排出量比較は実質的な排出量の比較が可能で、特に電気使用量に対する電力会社の係数の低下が顕著で、基準電度比較、23%減となり大幅な排出量が低下しています。

電気の排出係数が低下したことにより、電気以外のエネルギー使用から電気エネルギーへの転換の促進が望まれます。

全体的にエネルギー使用量が増加し、排出係数低下による総排出量の低下という、外部依存の排出量からの脱却及び全エネルギーの効率的利用が必要です。

実行計画の具体的な取組内容の検討と実行が必要であり、エネルギー消費の 8 割を占める電気使用量を中心とした温室効果ガス削減に努める必要があります